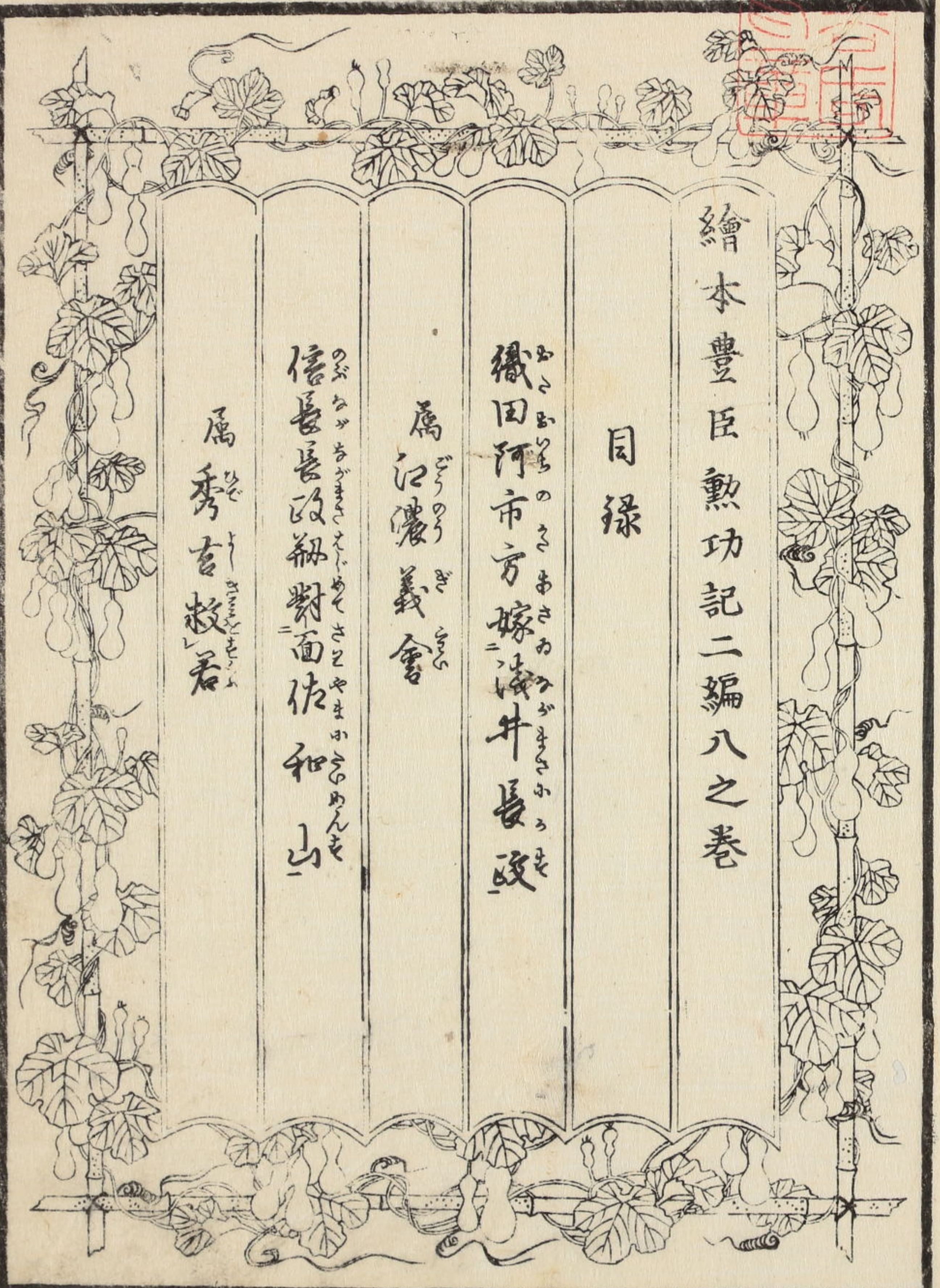


繪本豐臣勲功記

二編

八





繪本豊臣勲功記二編八之卷

目錄

織田阿市おだちあし方嫁あさか津井長政つゐながまさ

屬江濃義會えのうけい

信長のぶなが長政ながまさ緞對面ぬいめん佐和山さわやま

屬秀吉ひでよし救者すけもの

木下見明智光秀「悲近」君

属 泷 謙 信 長

織田六角者々 謙定軍後

属 木下高輪



繪本豊臣勲功記二編卷之八



櫻澤堂山 編輯

織田阿市方嫁淺井長政属 泷義會

花小百日の紅あきども人小百日は好か〜との言あるうか茲小織田淺井の
 友家好と結び〜由來也推すと云ぬる永保八年木下が勅めふより上洛
 の途るは淺井一家と泷掌ふ入だんが悪く〜さんと小谷の長尾安養寺
 之方第一小内縁ある不破河内守を使者と〜と婿媾の詞と謂收らう然
 ども遠事調ひ〜不破本意なく〜返す一月やと許て再び不破小内縁勝
 助と添へた別小谷(遣)され安養寺が許小行て婿媾の事と重出と顔小指と
 一うがと高尾も〜〜小谷の城(出)は〜再び長濃の信長より使者
 到來の〜と云華々勅めふ開も上総又信長の當り名譽の勇將小〜と武威

を國小並びに然るに當座形を懸る。一徳者ありしゆんと謂まらる。律是
 ぞ信長近き内小都乃地(新)一營り。之好松水の悪逆に御めん。謀り
 盾。一響此地を心安く。通行せん。とめと知らまらる。然る信長の不行を見聞
 つまのふ。天下の亂を破滅め。未小致らん。人々を。信長の外ありしゆら。徳
 英雄小親を信び至らん。事。浅井家の大業と重き。一制や當座形を稱す。
 一織田より娘を嫁らん。武門の面目を小過む。後新業謀とす。一
 と勸め小野守之政の父。政ある程。汝が重き。如。信長近き尾港を當座形。武
 威ありぬれば。遠天下小親を奉。四海一統の功を建。大将と重き。一然るも
 越前朝倉と織田と。六代。つる。後。備信長功を建。天下一統。一
 小の必於念を滅す。一。然るも。一故。備守。殿。朝倉家と堅約。子々
 孫々。を。別。心。を。お。ま。じ。一。誓。ひ。一。詞。を。い。ふ。せん。向。後。織。田。家。と。朝。倉。家。と。互

夫小及の朝倉家と身并ん事。故敵(對)。不孝も。一。信。を。謂。ふ。一。苟
 も。後。采。を。計。て。先。祖。の。信。義。小。背。く。こ。と。人。の。道。と。い。ふ。事。を。な。す。小。安。齋。寺。小。お
 遠事。と。い。ふ。思。ふ。と。向。を。ま。一。响。遠。藤。喜。右。衛。門。前。一。つ。る。一。孫。小。その。念。を。理。直。一
 て。作。り。信。長。を。あ。り。小。督。桐。を。不。望。せ。ら。う。心。夜。の。只。上。後。の。道。條。を。心。穿。く。を。さ。ん
 ため。單。小。さ。の。如。か。の。も。思。ふ。て。斯。ま。今。重。と。い。ふ。一。本。意。の。如。く。都。小。よ。う。優。々。と
 旗。あげ。し。ゆ。人。小。當。家。も。お。の。づ。ら。旗。下。と。あり。底。事。も。織。田。の。指揮。を。受。て。替。く
 方。を。此。時。小。判。り。定。て。信。長。朝。倉。を。も。當。座。小。属。せん。と。せ。ら。う。一。朝。倉。原。集
 織。田。家。と。い。ふ。事。代。不。認。は。敵。國。を。決。て。信。長。小。後。が。ま。一。然。る。も。一。响。小。上。徳
 今。の。あ。ら。を。越。前。へ。出。軍。を。さ。す。小。浅。井。家。こ。も。と。練。る。と。も。信。長。い。ち。を。听。客。の。言。ん。
 然。ば。と。て。浅。井。朝。倉。を。と。ら。ふ。り。信。長。と。軍。を。こ。も。千。小。一。つ。も。勝。つ。ら。む。と。い。ふ。一。朝。小
 及。ん。で。友。家。一。時。小。滅。び。ん。事。の。朽。憾。を。ら。む。や。一。信。長。小。の。擔。を。朝。倉。家。と。せ。て

安養寺

三郎左衛門

信長

謁

起證文

望七



こと。おめく。とこら。唯今の所迄答こそ。よく。後日の遠慮せむがら
し。志るべしと。諫めし。安養寺に。所なき。後。然と。所居より。久
政の傍。進。詞を。和らげて。意を。中。遠藤孫氏が。志を。法。わど。玉極の
こと。り。小作。ごも。今朝。倉の。留。と。信長。せ。不和。小。の。お。せ。地
小當家。法。世。と。あ。り。その。响。朝。倉。力。を。勦。入。當。家。を。援。助。存。之。同
ト。よ。と。ぶ。さ。や。し。と。量。り。さ。く。又。信。長。が。前。念。小。隨。ひ。縁。と。む
ま。び。ら。あ。も。も。彼。人。果。て。難。と。奉。天。下。と。一。統。と。さ。す。や。否。や。是。亦。林。と。決
め。ざ。し。見。ざる。赤。坂。の。事。と。大。案。也。昭。信。小。仇。を。招。き。あ。ら。せ。し。以。縁。とも。お
ら。ま。ぎ。今。は。量。り。こ。し。信。長。小。ま。ま。是。當。家。小。ま。ま。一。列。の。大。名。あり。と。い。ご。も。い
づ。き。早。く。四。海。を。東。治。す。天。子。を。守。護。す。らん。小。は。是。武。將。小。は。大。名。の。列
あ。ら。ば。も。物。こ。の。い。づ。き。小。ま。ま。武。將。の。下。知。小。後。が。い。だ。ん。が。あ。ら。せ。し。と。是

を。許。上。と。重。ん。朝。憲。の。後。の。道。を。ぞ。ま。せ。け。し。私。と。し。ま。さ。し。朝。敵。は。信
ト。信。長。小。違。ふ。の。罪。を。犯。し。と。い。ひ。づ。れ。形。り。武。將。と。し。て。王。命。小。違。ふ。の。誅。と。謀
罪。と。事。原。の。職。と。重。ん。之。一。信。長。倉。家。事。小。違。を。朝。敵。と。り。らん。賜
小。信。長。先。祖。の。誓。約。あり。と。當。家。も。共。朝。敵。と。す。こと。は。ろ。ろ。名。を。あ。げ
ん。や。方。僅。小。信。長。なる。を。い。ひ。し。る。後。に。お。お。り。て。目。下。の。安。免。を。計。らん
事。打。て。馬。矢。を。執。家の。御。本。意。と。存。と。り。あ。ら。せ。し。り。中。島。日向。も。信。長。の。武。勇。を
信。長。が。あ。ら。せ。し。軍。法。通。の。道。と。勝。と。と。鐵。田。郡。當。家。の。馬。矢。を。ぞ。む。ひ。信。長
婚。一。れ。ん。と。い。は。し。と。議。す。と。さ。し。と。い。は。し。と。い。は。し。と。い。は。し。と。い。は。し。と。い。は。し。
を。し。明。も。せ。し。事。小。信。長。ひ。人。の。信。義。を。歎。く。あ。ら。し。人。の。心。を。破。ら。せ。し。此。義。成
い。ふ。思。は。ら。し。と。當。一。漢。小。老。信。長。中。島。日向。も。磯。野。丹。波。も。あ。ら。し。人。の。心。
義。長。種。あ。ら。し。と。勸。め。ら。せ。し。久。政。も。強。不。理。と。同。心。し。と。信。長。も。使。ら。し。

不破内藤小対面とて。両使と奉九(招宿)種々態度の律あり。安養寺と帝
 たるに。専使とて。詞と仔細重んじ。不破内藤と一奇。濃河に遠く遣はる。
 諸不破内藤の出入。安養寺を同道とて。高草城へも。澤に遠く遣はる。
 信長夫人の喜悅せらる。安養寺と出。味あらば。対面あり。之由を。信長とて。謝す。
 遠く遣はる。河越の河越。意之政父子が。面目の至。
 こま不過の。惟使。河越。意と。不聊。人の心。願。難儀の。限。惟小
 より。猶。徳。つら。ま。つ。の。惟。ま。つ。の。方。信。之。の。事。を。致。さ。す。ま。つ。ら。ん。長。政。の
 祖父亮政。越前朝倉と。懇懇の。義。信。て。不。々。の。ま。つ。孫。々。を。遣。わ。れ。合。ふ
 づ。ま。の。致。す。物。を。し。惟。好。り。然。る。小。長。政。河。越。者。と。あり。更。と。親。く。あ。ら。ま
 ら。せ。河。越。の。陰。小。双。と。武。門。の。部。助。小。あ。ら。ん。事。大。層。玉。格。小。惟。を。由。朝。倉
 と。河。越。家。の。日。衆。代。の。不。使。と。集。所。惟。一。朝。倉。の。家。滅。と。進。ん。と。河。越。

前進。窮。ら。ん。事。を。致。す。種々。思。慮。つ。ま。つ。り。作。ま。ら。し。か。が。ら。遠。論。門。と。言。ふ。く
 原。た。も。右。も。命。小。随。以。事。を。料。理。惟。ら。ん。小。と。主人。の。意。出。惟。と。演。る。信。長。を
 こ。ゆ。備。別。の。心。底。誠。小。く。信。義。を。守。り。ゆ。て。茶。を。果。の。て。感。心。せ。り。予
 家。朝。倉。と。不。使。の。事。も。予。越。前。へ。仇。せ。事。も。予。然。ば。先。祖。の。不。使。の。論
 ぞ。今。さ。當。り。て。双方。も。小。仁。と。怨。と。何。を。代。ん。予。朝。倉。を。滅。す。地。を
 全。負。す。心。也。信。長。苟。も。天下。の。義。兵。の。罪。を。して。國。恥。小。困。む。と。被。ん。と。め。公。を。奉
 て。遂。に。伐。朝。倉。を。仇。ん。と。我。意。を。怨。小。と。軍。を。乘。決。せ。ん。と。か。の。怨。を。揚
 る。私。敵。の。割。を。い。う。る。遺。恨。の。人。小。も。せ。よ。其。人。朝廷。の。所。為。小。忠。と。錫。一。義
 と。も。乃。士。の。事。を。味。む。は。けん。や。遠。首。を。と。り。長。政。小。由。安。養。寺。に。遣。は。る。づ。れ。律。あり
 朝。倉。家。小。討。つ。私。の。怨。を。達。す。信。長。が。ら。と。宣。え。る。小。安。養。寺。滅
 小。た。そ。と。乃。士。の。事。を。味。む。は。けん。久。政。老。今。の。僻。と。く。仁。事。小。も。念。を。入。る。の。詞

信長妹を
浅井長政に
嫁し
安行の
略議を
調ふ



おを様おわく伺ひ直ふとこと小作若夫が下小津旗と奉さるゝあふ朝倉を
 所憎むをあれ越いりく所建相違るんが奉り布所證と頂戴つらう久政小
 視せこく存ト假と念強く重とふ上徳分能こと候もさういふ大又丈の
 言金決らうも猶望し。かんと紙を紙小証言らんや。然どもそ方ハ使士も。似
 もあるべしと命せありて身時小自心軍の證文と。之所た忠小通與さきこむひ。
 遠上遠心あり於く不日小入與せもむべし。其事も方小任する同宣し料
 理と命出する。之身た忠つ大小飲び遠所證と賜う。ハ久政安途假べく長政の控
 りつて違心ありと思れもなり。此君所入與の事小おいてハ子涯分中も純走
 調成りやたえまゝ。と信長の折書書どか。戴。謝辞り。とは。是阜と違出のそ死
 小言（むれ返）。信長の口状ありび小折紙と。い。久政父子小見せも。於。あ
 上ハ信長と縁者小とも苦。う。ら。ど。と。と。准。備。と。と。と。の。遠。慮。を。右。申。つ。

出馬久政父子小重とら。信長折紙と違し。朝倉小右意や。六謂
 もども遠く後日と考ふま。折紙も及古小ありぬ。織田蓋世の勇將
 かれハ所の遺恨と。お。れ。不。存。ハ。ぬ。とも。義。景。原。素。小。量。小。し。て。大
 事小疎くあ。う。ま。ま。に。終。つ。織。田。の。機。小。違。ひ。ら。夫。小。お。り。び。假。ら。ん。と。ぞ
 更ハ折紙と。朝倉ハ謀と。ん。あ。ら。ん。と。遠。折。書。紙。も。朝。倉。ハ。討。し。罪。ハ。死
 族小私の宿意と。ん。と。信。長。と。と。あ。ら。ん。と。所。つ。然。ハ。淺。井。家。朝。倉
 と。家。團。ハ。安。危。存。亡。と。共。小。さ。ん。と。お。り。あ。さ。に。織。田。小。好。ま。と。結。を。と。あ。ふ。辨
 らう。織。田。小。親。し。り。至。る。朝。倉。と。弁。ら。ふ。べ。し。支。那。と。拵。と。小。換。積。小。似
 たりと。理。ま。と。飾。む。も。久。政。既。小。心。と。決。し。朝。倉。の。緯。小。定。ま。り。と。ま。い。り。於。右。果。つ
 再ハ練と。謂。と。着。と。を。そ。め。て。休。小。ら。ん。と。淺。井。家。より。姫。路。の。使。者。と。と。て
 厚。板。と。の。緯。綿。と。兵。と。と。錫。と。と。取。阜。ハ。賤。ハ。信。長。小。殊。小。悦。び。使。節。と。程。と。

款待之よし。年の卯月吉日。信長妻女於市の方。今年才二歳小く。近國七双の兵人あり。膝女も後頼伴にて連く違くと最艶く。江列小宮城へ。與ありれば。浅井家小も又婚姻の禮古實と正し。作方を重んじ。千秋万歳の。あつらひ小愛く。騎儀調納せり。於市の方。法相親藤一紀と。藤吉小のよし。駿小船月もこま小面。下蓋て雲小。澤もやとく。芳光もこま小。春小。胸の色を。美ふて萎む小。似たり。是小。因て長政小も。飲び愛せざる。律りたり。只。願。を。席せらるる。とや。斬。る。る。時。を。其。後。新。公。方。義。昭。君。其。濃。所。動。座。の。機。舎。や。も。所。登。慈。等。叮。嚀。小。く。藤。川。も。中。道。と。ら。ま。り。そ。の。ハ。圖。を。影。に。あ。家。小。の。政。卓。へ。所。動。座。ま。し。く。な。れ。ば。不。日。小。上。洛。の。り。や。あ。り。ま。ら。ぬ。江。列。の。地。利。と。見。分。の。さ。め。目。ハ。長。政。小。對。面。へ。踏。次。の。こ。と。を。も。相。送。せ。な。る。と。永。祿。十。一。年。八。月。初。旬。使。者。せ。り。て。浅。井。家。へ。宣。達。し。り。や。る。近。日。動。公。方。義。昭。君。所。上。

△江列決世
山平の虎
權とまら

洛中へ申上るべし。關道のこむとて。来る七日。佐和山まで。信長出合を。この間。長政小も。彼中。あま。中。越。あ。る。と。の。詞。あり。小。谷。より。も。右。の。む。ね。兼。知。の。よし。と。言。ふ。り。然。バ。直。地。小。出。立。ま。す。と。そ。ま。ら。の。準。備。あ。り。り。と。家。事。法。面。を。諫。む。る。や。う。今。浅。井。と。中。越。者。の。波。方。の。心。算。計。を。し。隨。分。漸。心。あ。ら。せ。ら。ま。大。概。の。供。仕。志。を。と。と。重。を。と。と。本。願。と。う。ち。揮。大。概。小。て。漸。奔。向。あ。ら。せ。ら。ま。若。の。中。越。光。澤。さ。小。似。たり。遠。道。の。所。出。會。の。對。面。の。式。と。ひ。中。道。路。所。相。送。の。詞。の。さ。め。目。ハ。中。道。を。答。へ。所。用。ひ。や。平。常。持。場。の。所。出。會。小。準。ぜ。ら。ま。し。漸。供。も。都。て。束。服。と。ら。ま。大。丈。丈。の。所。威。光。い。や。く。顯。ま。し。江。列。侍。士。帰。伏。と。ま。し。從。令。い。や。か。ど。の。大。勢。と。召。連。と。せ。ら。ま。と。も。漸。身。の。守。護。小。あ。ら。ま。し。り。小。谷。漸。供。つ。ま。り。漸。傍。小。候。と。も。復。と。ま。し。各。々。漸。安。途。あ。ら。ま。し。と。所。し。ぬ。さ。ま。て。信。長。も。こ。ま。小。同。心。し。玉。ひ。て。上。下。の。供。人。百。五。十。人。の。り。ま。も。野。村。の。束。服。小。

豊臣記二編卷之八

て近士の者中只一個疑々然とてうち茶を飲り

信長長政初対面佐和山属秀吉救君

渡船の佛船小精進とて獲とをとの實小秀吉の心魂あり。月小寸甲を帯て
一と親とあまごも戦國ありとていそ心寧ろふさ増て君と守護とありと今
江別へ趣く事へ關上の水と踏小初らり然と小永祿上一年八月七日織田と後
平信長末下己下の沖借人僅小百有五十人江別佐和山へ趣死ふ然るに未
下秀吉ハ要隘源を謀するは六峰濱賀尾と初とて事小熟るる勇士
達一千余人小指揮を傳へ情く地小少拾せ番場醒井 柏原慶計原の事
谷を進退自在なる下己の勢と據付を。番号を定め何時小も是を
系小下己部ありと末下己思意の量こそ九ありね。信長脱小磨計山の出小川
も小視て浅井家より遠下へ休息亭とあらひわれ長政も出張と初対面

の義式と行ひてより長政案内して佐和山の城小入らせらる。初小浅井の家
人併へ信長他國へ出らり小更小準備の体もさうち實なる平服小に到り
供を駿卒の三百五十の小勢ありと心は底の量りうねり密小こまじを情
つ凡人あらぬ良將とて感徳の色ありとさう。長政信長と源殿小請り。杯
奇と書しん登應ある。織田殿酒宴の席みから直小公方宗源上洛の
大小事と相談せらる。近來江南の六角兼頼渠が心懸覚来あり。いづく
所將佐小参るや名も推問のこめ使者と遣しける事ありと便機とも
此と待んと主人の款待と大小謝と。遠响浅井の長尾達と悉く唱出り
信長まじく小朝とらけらる。並と賜やるが。次首小巡りて。遠藤兼喜右衛門
小至る。喜右衛門膝行と進出。信長の相談と窺ひ目朝の辭くと考へ何と
名譽の良將あり。然とも浅井と縁をせし事。謀の種と知らる。長く當家

と好むと結び義を全する心算あり。此能く死は後未だ未だるこそ
 難くも。使信長を敵殺し。新公方家と小室(途)浅井の力せりつて。好む
 邊治し。京都の運河を枕成さん。末代の名譽こそ不遇と。俄頃小謀を
 案出し。煙毒を用ひんとあり。長政小わらせんと。悪うと。一と。座に起出
 せ。何待て。遠謀を謀命と。小室政こそと。兼引せむ。信長平服して。未降の
 婚姻の好むあり。願はば。毒殺せん。律武門の道と。いふ。うらむ。努く。遠
 事思止む。敵めら。穢れら。喜右衛門も。方儀の力。また。又も。出思
 中。遠遣信長を殺さん。後日小室を悔あり。従令主人の許さ。とも。是
 と。撃つ。家國の。めり。果さ。と。思ひ。定め。遠上。信長小走。義。利。殺さ
 たり。と。心。交し。緩刀。襟底。小室持。機命。を。窺ふ。心。む。う。う。ち。酌。小。も。り。思。が
 長柄。と。吃。と。目。原。得。計。と。是。完。竟。と。兇。性。と。檢。選。右。衛。門。新。助。ま。お。ら。せ。ん。と。死

席小進むと。木下秀吉酒宴の秘より。遠藤孫が。彩色小殺。氣。顯。ま。と。を。懐。く。と
 親く。酒。も。飲。ま。む。万。事。の。首。尾。小。眼。を。配。り。て。ま。を。り。し。う。方。儀。遠。藤。孫。が。相。杖
 と。把。て。酌。小。も。り。も。拳。動。い。り。小。も。尋。常。あ。ら。ざ。れ。ば。孫。吉。新。こ。も。と。と。亭。儀
 小。お。り。ひ。突。と。座。を。起。て。右。衛。門。が。ひ。し。一。親。面。へ。座。一。塞。り。新。助。一。や
 遠。藤。孫。大。人。老。分。と。い。ひ。身。神。と。い。ひ。兇。性。と。い。ひ。小。酌。せ。ら。ま。ん。律。お。と。な。び。く。覺
 惟。小。室。こ。そ。年。弱。少。く。才。分。相。應。の。者。小。惟。挑。子。と。こ。あ。ら。し。漸。進。與。未。ま。と。詞
 と。う。け。つ。喜。右。衛。門。が。持。つ。相。杖。と。こ。ら。ん。と。ま。を。り。と。う。小。子。こ。そ。久。政。の。使。と。て
 漸。藤。孫。へ。出。て。ま。も。熱。せ。る。漸。款。待。も。つ。ま。ら。ず。と。切。て。漸。酌。あり。とも。は。り
 一。献。と。め。ま。ぬ。ら。せ。ん。と。得。く。ま。り。起。て。惟。小。室。新。助。酌。さ。ら。ま。り。と。下。こ。そ
 殿。下。漸。進。士。小。し。と。熱。も。客。人。小。て。お。ま。り。と。ま。は。い。惟。小。子。小。仕。せ。ま。ら。ず。と。強。く
 相。杖。と。棄。て。ま。と。孫。吉。新。助。の。新。助。小。の。男。女。と。未。少。の。難。人。の



喜右衛門
 遠藤
 殺氣
 観破



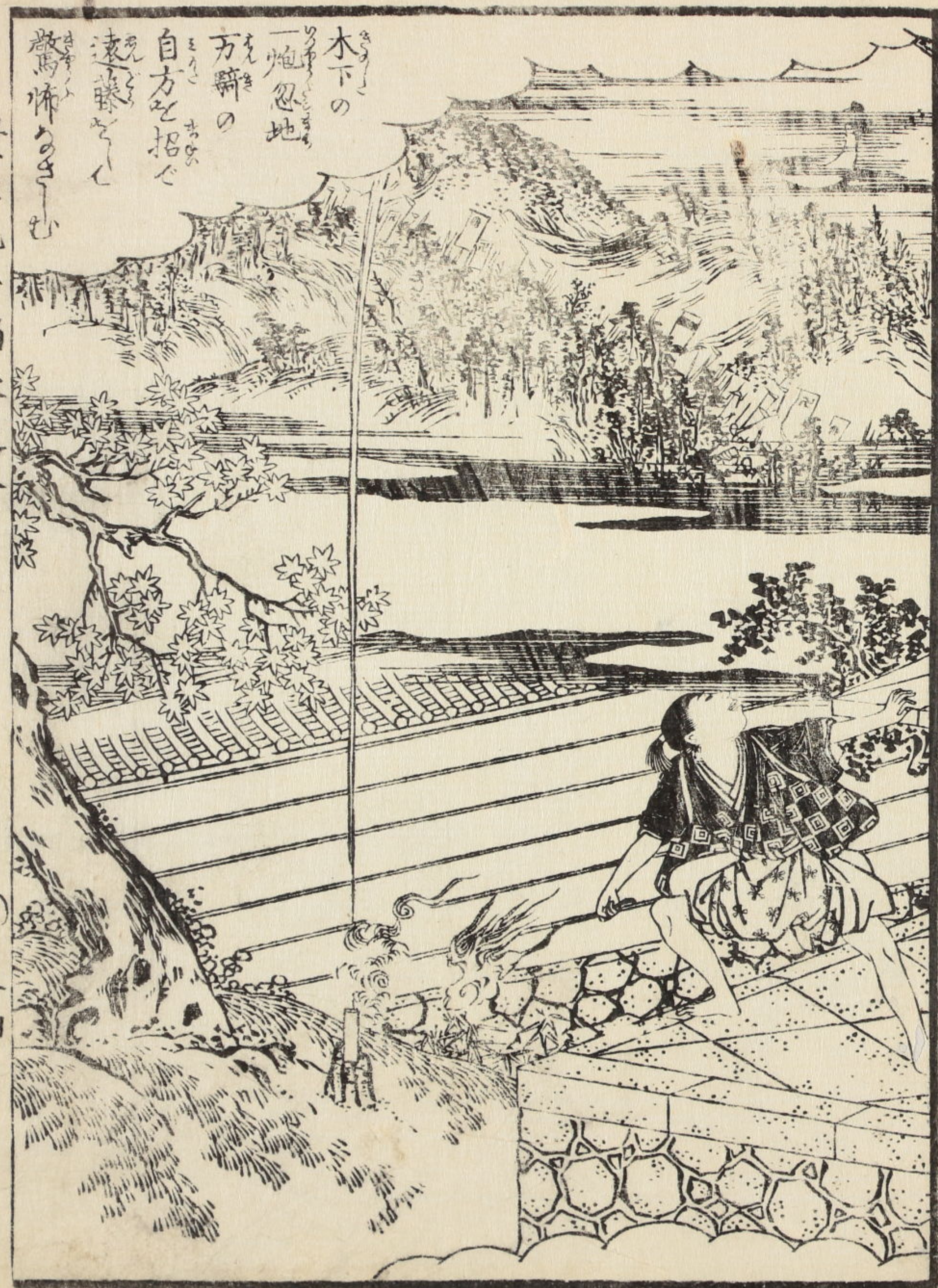
佐和山の
 宴席
 秀吉の
 天通
 高

後あるべし。とこよひ引智豆下の骨相を察し、て是れ思ふべし。却て酒宴の奥も覺かん。妹漢の橋面冠者、橋が酌こそ相應り。と見えて、浅井長政は遠慮を恥と、時り、酒宴小遣ふに、と禮あり。使末下小語い、まよとある。小春石、心中小怒るといふも、厭を欺け、と苦笑ひ、本座小遣、まよ、後吉、骨頭で、池子、提督、新河、竹、寧の、酒、宴、意、小、主人も、始、た、後、あり、小、居、を、骨、の、ま、り、を、が、ら、橋、法、橋、を、築、つ、り、ま、り、酒、者、を、勸、め、ん、と、戲、ま、る、が、ら、長、政、小、一、献、を、ま、ぬ、ら、せ、り、信、長、こ、ま、ど、高、ん、し、い、ろ、を、藤、吉、守、が、酌、を、ら、バ、酒、宴、主、小、も、酒、宴、を、把、を、ら、ぬ、ら、ぬ、と、あ、り、ま、り、由、(長政も)微くと笑、辭、ま、り、の、隔、心、を、小、似、り、と、ま、り、米、を、酒、に、添、へ、て、信、長、に、了、る、酒、末、下、素、衣、袍、の、衣、紋、を、信、ひ、の、羽、推、把、を、も、舉、り、後、法、ま、り、信、と、あ、る、中、の、酒、宴、や、と、ま、り、ち、揚、て、誂、ひ、ら、ま、り、長、政、に、と、く、不、笑、門、小、投、う、ち、實、ひ、で、奥、下、る、酒、信、長、も、已、と、と、笑、ひ、い、り、小、孫、吉、守、今、日、の、予、婚、を、備、別、長、政、に、送、り、然、し、

て、初、の、對、面、あ、る、小、孫、吉、守、は、こ、も、忌、む、ま、り、の、と、戲、説、を、多、く、長、政、も、座、中、の、奥、を、ま、り、橋、の、ま、り、と、満、應、笑、ひ、こ、ら、ぬ、と、賤、し、げ、見、え、ら、ぬ、と、角、家、(使、末、小、由、也、) 和、田、伊、賀、守、と、ち、近、り、兼、復、よ、も、不、負、氣、小、ま、り、し、し、酒、邊、律、を、苟、も、新、公、方、家、の、新、使、と、新、使、と、も、あ、り、え、ど、し、て、と、禮、を、橋、の、應、對、を、も、兼、復、を、准、と、所、より、信、長、然、ら、ぬ、予、初、より、兼、復、へ、と、好、松、永、と、同、く、七、郎、公、方、家、は、新、公、方、家、と、謂、ふ、朝、の、宴、に、ら、ぬ、其、儀、を、ら、ぬ、軍、前、小、ま、り、づ、當、國、(新、河、) 投、六、角、家、に、送、り、一、上、洛、の、通、り、を、ま、り、づ、と、長、政、も、遠、年、を、ま、り、づ、隨、分、忠、功、と、違、ふ、と、と、約、定、あり、と、謝、辭、を、ま、り、づ、小、孫、吉、守、成、の、ま、り、づ、刻、あり、長、政、も、酒、宴、を、と、海、次、を、兼、小、孫、吉、守、固、き、磨、け、り、退、返、し、と、小、ま、り、づ、信、長、の、柏、原、の、成、善、提、院、を、り、つ、て、信、長、と、し、浅、井、家、の、の、馳、走、人、の、浅、井、後、殿、助、中、島、九、郎、次、新、遠、孫、を、右、史、と、つ、け、ら、ぬ、と、つ、つ、も、稍、々、中、心、を、ま、り、づ、信、長、は、寤、む、と、ま、り、づ、更、圍、を、ま、り、づ、酒、宴、を、し、熱、解、を、ま、り、づ、と、兼、復、を、右、史、門、

密に相問見ても信長は佐和山を以て本意と違ふ。歎念を以て言ひしが此時こそ天の報
 了時ぞ是れに信長は今宵のうちに敵軍を以て討つべしと云ふ。右の一人は駿馬小報
 うら小岩の城へ馳進り久政父子を助めて曰た右信長の書書は右後の大将なる當家
 と云く好む結び信を通せん律おつる。過世逆取事小聞り。後日鉄せしむらん律と
 謀のふき小似らう。對々の軍士の決ても信長は勝つ。今夜是令相承して喜ぶ
 と後へ馳解せし。天法井家小依怙を以て濃尾を國と懸る。方僅小居
 小軍を以て六七百人附兵し。五々若もかく信長と段段のさへ收束同心す。あせと
 重せと久政得心せむ。信長は量懇切小信義を以て争ふ。といふ小形は廿六とて
 熱研の人の言録首を別武士は法小あぶ死。斯る事と云ふ心願小決して思案づらむと云
 一く誠めらむ。一。懸断を以て退出。程害心の歩む。若び法井掃部は花擔
 らひ。自ら百人を以て懸く。糧を得ぬくと撰て。响を轉る。どと云ふ。若び成善提院

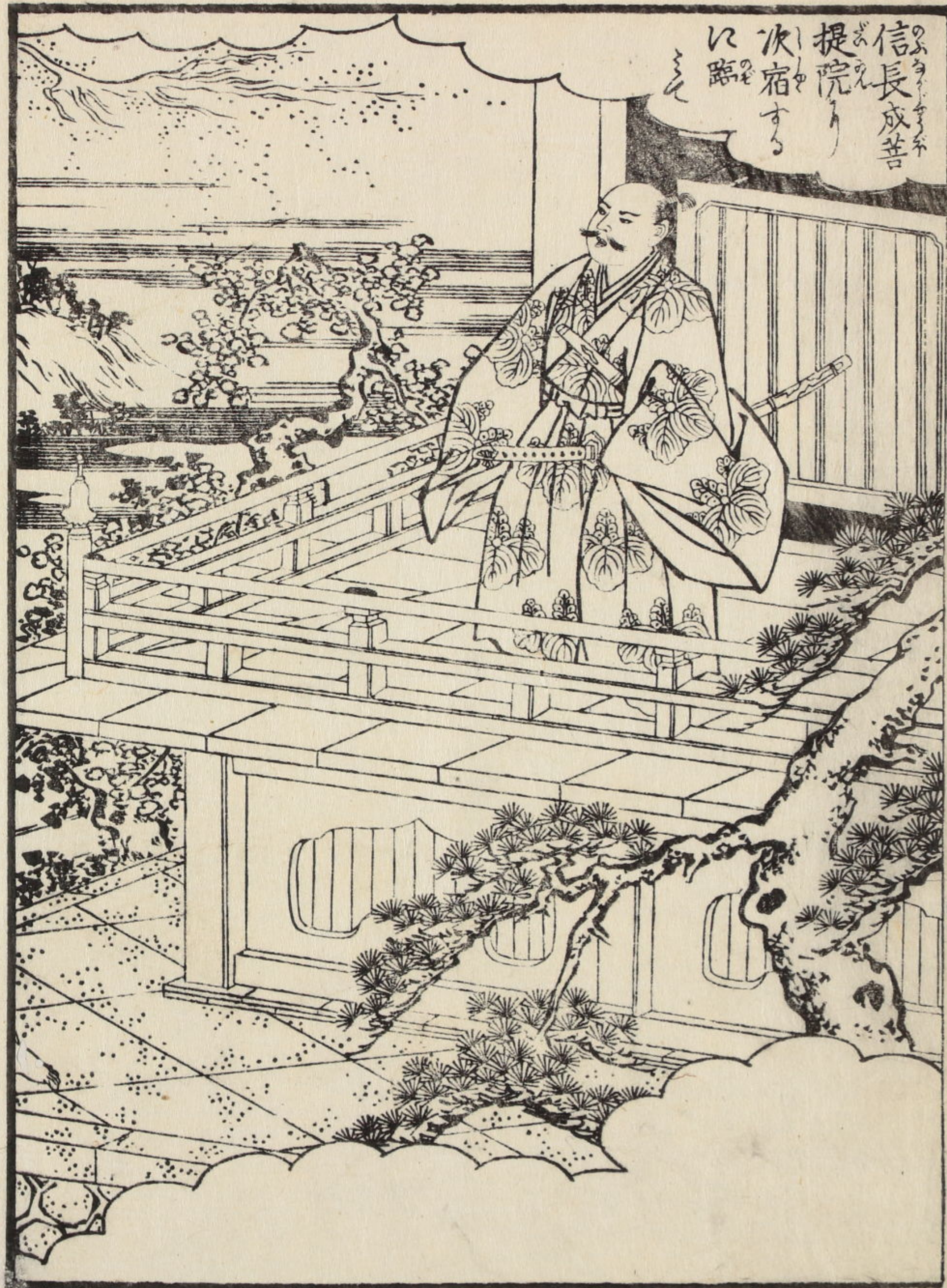
へ推進る小遠坂右左衛門大少院之鬼神も怖る。信長は今宵の内小うち
 一。明日は濃尾と斬る。烈火の像く小純らうしが。申途小雲時と云
 馳り。疎忽に軍の病あり。一。急存作を遣は。院を以て致事せりて成善提
 院へ走らせり。刻際さる。小彼介候喘く。走込り。いづくの懸。あせね。幾平
 とも知む。地響り。成善提院の四方を以て。一。圍を催り。と云ふ。折と
 遠藤藤喜右衛門空唄て。冷笑ひ。何条懸。このあぶ。ど。ど。自軍の云士
 たらんは推進ると指揮を以て。法井掃部。止め。各々。小進。事。始
 免く。おが。是。中。獨。於。寺。小。由。外。實。る。と。よ。く。視。あ。を。進。退。を。案。内。一。な。ま。と。
 いふ小右衛門。強小も。と。お。ひ。馬。の。書。を。帛。小。て。色。を。成。善。提。院。の。遠。を。以。て。と。云。
 若見ま。小。初。の。い。小。介。候。が。謂。小。些。も。違。え。を。務。當。慥。と。言。ふ。ま。は。四。五。千。余。
 騎。も。お。が。し。た。織。田。勢。を。以。て。小。篝。燈。を。懸。を。四。方。を。者。備。小。く。あ。り。了。得。の。遠。



水下の
 一炮忽地
 方辭の
 自方を招ぐ
 遠藤を
 驚怖のさしむ

豊臣記二編卷之八

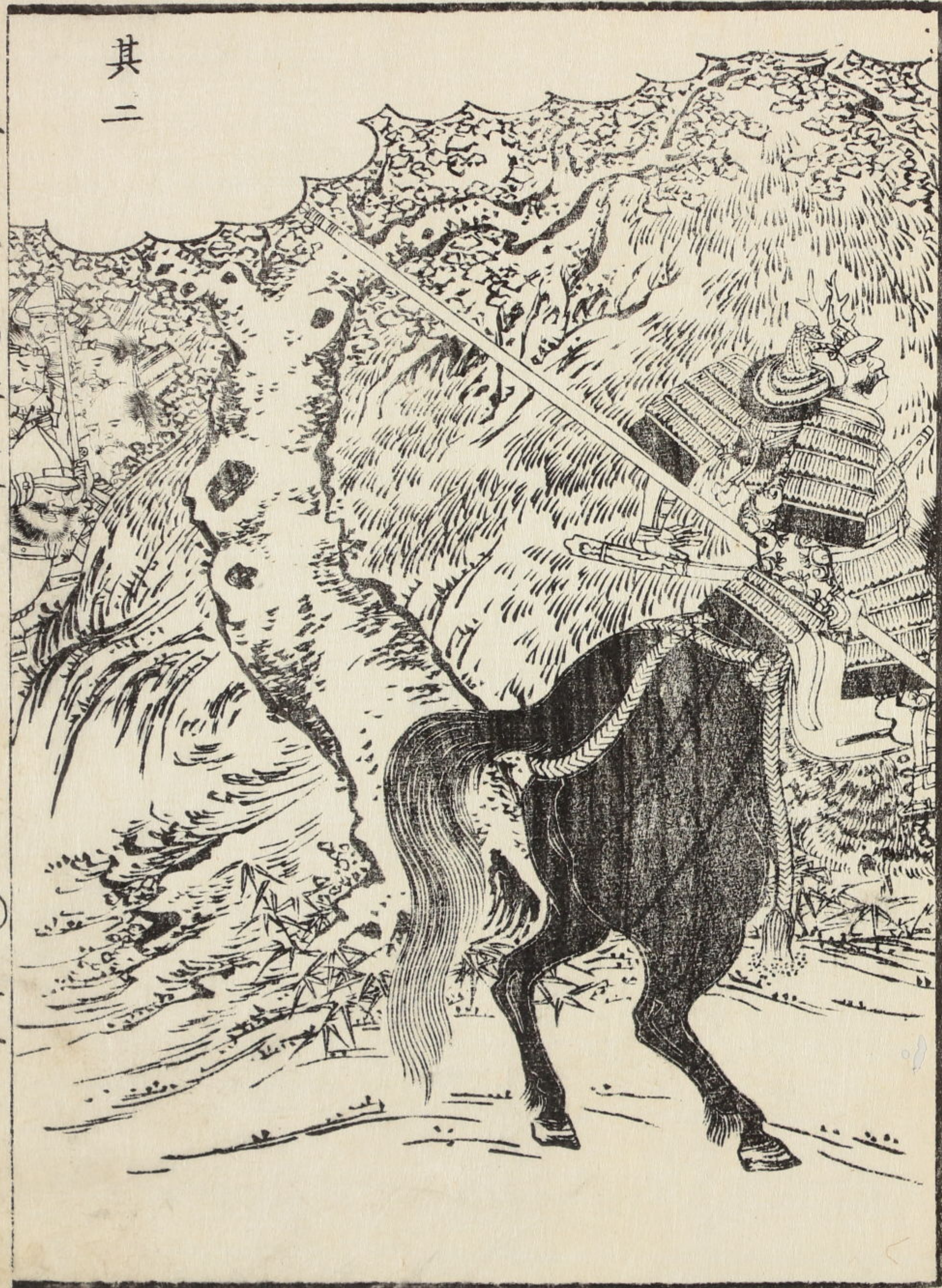
十四



信長成善
 提院
 次宿する
 に臨

豊臣記二編卷之八

其二



豊臣巴二編

十五



豊臣巴二編

十六

孫助と云ふ。初て小幡とと把て返。掃部のを退るを子も平服小
 あらとめつ。公家もき伴小のてもて寺中へ投らんとする處を籠固の公士
 依こまて見外はめ宿の沐る小何者も其六案内もろく通る事といふは
 右邊の澤もろく乃丈の遠方右邊といふ淺井清純の役人あるが所
 登喜の澤小つひて主人小尋ねる思杖ある也。甲辰小谷まう越只今降り
 て候ありと云ふる。親小籠固の公士さうが通る。いふんが誰うん認る人やあを
 いふ善の下一個の公士遠藤藤久人小相違なりと證するを所て通る。喜右
 衛門中まう候。いま後時りて言を和らげ給う方いひまの隊の侍士流れて
 ありつるぞと訊ね小公士候言を借小。是ハ例後の城を本中部の公士めて
 輝次實主中といふのあり。初てろく人の判令を守り。外面小守護。急らせ
 一が今宵ハ御思杖ありと部首の暗号小隨ひ部ハ警備いことありと所て

喜右衛門我もろく折け肝心。や大將の熱酔せ。こそ天授の响と来て因合まはる
 臣小新量忠義の心を傾け守護する軍のありつる。實小天成は良將あり。
 史を我等が分として謀りたる事結果よくと怪死感とて勿ち小公まこと害心せ
 止めり。方便此寺へ輝次實主の暗号小ありて集りし。本中甲辰より遠藤が
 奉止小目と厲し。が君親親せらまじ。傾より喜右衛門の西く勝信忠小おまこれ
 巴後事ありし。と淺井がの侍士小同親まは遠藤一個馬小うち談ひつ。此當て
 や純行。と云ふ小侍と号輝を放ち輝次實主を集め。ありた。右小當夜もろ
 ぼの焼く燎の光も急る。信長寺中を清起あり。兵濃小清馬を向せ。る。ハ
 輝次實主の二十余人前後と守護して列ね。信長こまに清見あり。遠藤軍ハ
 しの向小籠が指揮して集りしと訊り。る。馬前の公士是ハ本中孫吉のより頼て
 重なる。一假と云ふ。て道と急る。事ある。政草小孫城ましく。早速考吉

と出立し。は外の始末を済亂ぬ。小佐和山城。少て遠處が。漸酌小起。る响の如化
害心ありと目へ備へ。漸賢の如く。枕量らひ。又和原の所。旅館。亦ても。怪しき。車
作。人。隊。小。の。輩。と。呼。聲。め。守。護。つ。ら。ま。つ。ら。せ。惟。と。重。上。る。に。後。田。破。少。の。事。心。感。小
入。る。ひ。孫。吉。吉。が。遠。慮。の。量。狭。小。頼。母。く。思。ふ。あり。さ。方。一。人。隨。身。せ。ば。い。ろ。ろ
と。あ。ら。ま。い。る。氣。煩。ひ。か。ま。を。收。び。て。お。ひ。ぬ。

本下目明智先秀慈近若 属 源隼信長

二層五層の樓閣も。礎より。せ。か。ん。バ。あ。ら。ま。と。若。び。孫。小。親。奉。る。以。智。十。念。源。先。秀。こ
そ。會。若。る。が。ら。杖。才。大。會。雲。水。と。も。の。後。歴。し。と。終。少。の。將。軍。の。任。を。棄。つ。孫。小。逆。あ。る
者。の。大。ひ。さ。う。的。然。不。の。信。長。の。角。兼。復。の。心。を。思。ふ。こ。ひ。最。初。小。渠。を。伐。滅。し。
所。上。流。の。道。を。用。う。ん。と。出。陣。の。准。備。志。は。り。あ。る。响。新。公。家。信。長。を。以。て。明。智。先
秀。を。奉。せ。命。し。さ。り。并。も。遠。慮。の。量。狭。小。を。承。て。頃。時。に。後。惟。せ。し。の。あり。上。流。の。道。は。ハ

將軍小加。ろ。忠。義。と。そ。を。と。り。て。後。惟。と。納。め。さ。し。ら。び。既。小。自。の。近。づ。め。る。と。若
ら。ま。い。る。も。加。添。て。こ。ひ。惟。と。命。出。さ。さ。る。あ。ふ。よ。う。信。長。護。て。奉。所。若。の
為。小。忠。と。謂。さ。ん。ま。侍。士。の。貴。賤。を。界。せ。撥。び。り。さ。む。招。宣。の。時。并。小。惟。援。て。や
後。意。あり。何。そ。の。あ。ら。ま。申。ぶ。も。然。あ。ら。其。者。の。只。今。が。小。惟。や。と。訊。ね。ま。お。ら。と。を。新
公。家。の。若。び。人。を。せ。ら。ま。さ。る。せ。う。原。來。明。智。十。念。衛。の。當。國。累。代。の。侍。士。を。ま。ご。由
秋。藤。義。能。の。怨。あ。ら。ま。物。語。こ。と。有。ら。じ。定。め。て。出。陣。の。油。法。を。因。に。出。す。詞
あ。ら。ま。と。宣。ふ。て。止。ま。ら。ま。一。支。日。を。過。せ。居。本。下。孫。吉。郎。と。う。言。状。く。明。智。先。秀。と
會。さ。し。の。奉。公。の。望。を。作。て。奉。上。と。の。う。せ。重。し。出。り。并。も。此。先。秀。朝。倉。若。の
孫。を。辭。し。謝。辭。せ。り。奉。り。ま。が。坂。阜。小。引。り。て。踐。踏。せ。給。は。當。時。信。長。の。家。宰
申。小。下。孫。吉。郎。と。い。ふ。侍。士。の。希。代。の。英。雄。あ。る。を。辭。小。所。出。し。ま。ら。遠。人。と。の。く
推。奉。せ。頼。ま。い。首。尾。宣。う。ら。ん。と。本。下。が。許。小。い。ろ。家。系。を。と。採。出。し。執。持。さ。る

と申す小より。孫吉舟と申すは、昨投對面と申すは、人品と觀ふ小言、諸應對洋ら
 せ、若輩曾法凡科あらねども、其意氣は、小も稱あらねども、本中心小、軍々の
 りひ、遠征、遠洋さんと申す、侍姑、遠者の不思、我よりして、侍姑と申す、
 多らむ、我と不波の家老、柴田、信久、間へ、便に、柴田、信も、我小、秋、殺、
 んと、心、を、して、執、の、い、げ、然、せん、より、初、申、後、も、小、唱、子、を、り、つ、て、畢、らん、と、思
 轉、て、言、上、せ、り、う、信、長、を、き、を、所、し、め、り、と、ま、こ、そ、願、て、新、公、方、家、より、命、を
 き、者、を、ま、し、使、出、せ、と、宣、ふ、より、孫、吉、舟、の、う、く、怪、に、信、に、我、より、推
 奉、せ、り、こ、そ、願、て、備、他、の、家、宰、元、より、撰、摺、得、を、と、らん、お、か、ら、む、事、を、
 備、せ、ん、集、心、意、量、が、し、と、心、は、ら、ち、小、思、惟、を、し、願、て、先、秀、を、道、を、き、て、お、れ、お、登
 ら、ま、さ、ふ、と、ま、ら、ち、織、田、敵、對、面、の、う、へ、を、方、の、家、を、と、り、代、當、國、の、信、を、し、
 予、も、諸、く、思、ひ、ゆ、ら、む、と、ま、ら、ち、我、亦、小、お、わ、く、も、新、公、方、家、へ、忠、志、を、賜、り、仕、下、
 上、

神妙あり。遠達、新上、治の、新事、おつ、新、魁、軍、小、系、ト、忠、戦、とし、惟、を、言、く、懇
 賞、を、賜、り、ん、小、累、代、先、祖、の、面、も、與、り、且、子、孫、の、後、業、も、用、ま、さ、う、と、懇、切
 小、意、一、と、こ、こ、ま、ま、先、秀、首、を、願、て、身、不、肖、小、作、得、と、も、又、下、治、新、大、事、小
 志、加、り、り、相、應、の、忠、心、を、竭、さん、律、素、より、の、奉、意、小、惟、小、臣、當、國、を、奪、走、つ、ま、
 了、諸、國、を、歴、巡、惟、(也、も、然、せ、る、幸、福、も、を、惟、て、後、に、く、年、月、を、過、さ、う、ち、國、ら
 を、越、前、小、舟、を、任、り、ぬ、微、の、功、勞、あ、り、と、美、志、の、恩、を、奉、り、ま、さ、し、も、彼、國、の、風
 小、て、君、臣、と、も、自、國、と、の、間、一、と、思、ひ、古、來、新、系、の、新、軍、を、謂、之、忠、を、お、思、ひ
 も、や、ら、む、願、が、上、新、公、方、家、の、新、情、を、し、惟、と、添、く、恐、ま、へ、惟、の、(軍、
 漸、強、を、慕、ひ、ま、お、ら、せ、出、國、つ、ま、つ、つ、惟、と、新、詔、を、り、つ、て、言、出、せ、り、信、長、お、ら
 厚、く、お、お、し、め、り、技、術、宛、行、ふ、疑、少、く、あ、ま、と、今、い、出、陣、の、日、も、定、り、余、日、を、入、ら、
 事、小、あ、ま、に、奮、く、魁、軍、小、加、り、白、列、へ、う、ち、投、擲、れ、惟、(且、他、國、や、と、軍、中、へ、
 こと



木下り遠慮
 他年の後を
 察し強く
 光秀を推挙
 せしむ



遠道軍師の指し用ひてありて深く喜び置候。且つ徳兵衛の軍
 のあらひの功運をあらうとて后賞をいふ。道も徳もいふ。す功
 あり。小君の神さそへるもせよ。こゝろに心も動かざる。こゝろに目も
 中へあり。功あり。小君の功を賞せしむ。心も動かざる。こゝろに目も
 さら。响若の恩分。先秀が心も動かざる。こゝろに目も
 惟らん。君も。渠も。意の如く。恩福のこと。難う。備へ。こゝろに目も
 諸代古美。中のみ。は。退き。醒。惟ひ。かん。こゝろに目も
 どうも。あり。當後。彼者のみ。け。い。こゝろに目も
 君の。清威。先博。の。も。さ。は。し。小。は。密。小。丸。の。め。る。が。先。秀。は。先。本。毛。利。の。お。り。て。奉
 び。こゝろに目も
 小。領。地。を。追。出。せ。と。や。借。も。朝。倉。の。恩。分。も。將。軍。の。福。分。も。あ。ら。う。と。い。ふ。こゝろに目も

便ありて退身せしと所及り。是れゆゑ。推尚ハ君は恩義を思ふこと。深く
 唯身のこゝろをあらうと。心も動かざる。こゝろに目も
 切。小。領。地。を。追。出。せ。と。や。借。も。朝。倉。の。恩。分。も。將。軍。の。福。分。も。あ。ら。う。と。い。ふ。こゝろに目も
 さい。新。公。家。の。命。せ。し。詞。も。こゝろに目も
 詞。も。こゝろに目も。明智。先。秀。を。よ。し。借。小。先。陣。と。い。ふ。詞。も。こゝろに目も
 織田。六角。各。を。評。定。軍。議。局。本。下。高。論
 牙。余。軟。は。是。身。を。さ。す。の。本。剛。強。は。是。福。を。著。く。の。胎。と。い。ふ。江。列。の。清。井。六。角。お。り。て。諸。も
 織田。敬。少。の。別。を。未。破。り。新。公。家。家。新。上。流。の。諸。も。同。く。ん。こゝろに目も
 江。水。伊。織。の。軍。を。催。促。し。一。宮。八。守。會。合。人。着。河。村。見。あ。り。て。永。禄。十。年。九。月
 七。日。出。陣。と。い。ふ。詞。も。こゝろに目も。信。長。立。正。寺。小。奈。と。い。ふ。詞。も。こゝろに目も。新。公。家。の。清。氣。色。を。伺
 た。ま。い。今日。ま。づ。新。敵。退。治。の。こゝろに目も。小。出。陣。と。い。ふ。詞。も。こゝろに目も。不。日。ま。さ。に。攻。拍。げ。迷。小。河。途

奉らん其胸をく、洲出島惟ら最己十日の過りくらと、言はく、まのりは。
 新公方家の沖表悦びなり。ま行列を沖渡りて、諸次小出陣。
 こゝより、ゆゑに富家小出陣し、織田信長の陣列あり。諸次小出陣し、
 を龍さど、旗旗翻るとして、天を覆ひ人馬を驚動せし。涼山魏く、
 四色を掛て見へふ。新公方家も頼んが、わつらうの方僅親而沖渡り、
 らう。出軍の行装のま、しる。沖心寛くおしめさ。近侍伺候の面々、いよく時
 りく思ひ、いひ、豊田殿の衆軍の見盛し、さよと感激の声。雲時の鳴りも、
 り、之陣に別、相系小出、さき、後陣へ、不港列の、赤井、赤坂小、
 その夜、成善提院小、宿、あし、翌、天、八日、近、い、佐和山城、
 長政も、遠、ま、出、迎、ひ、南、諸、城、の、同、行、等、い、く、と、所、相、談、し、
 逗留あり、姑く人馬を休ませ、あ、然、不、ど、小、當、國、親、善、寺、山、
 城、中、山、の、六、

角、彈、止、少、彌、義、賢、入、道、兼、復、お、よ、び、右、中、の、佐、義、源、江、南、の、諸、士、
 長、後、者、と、さ、一、越、影、公、方、家、の、沖、將、佐、小、馳、走、り、
 づ、た、よ、し、と、重、く、り、我、影、公、方、家、の、當、國、南、家、小、お、ま、
 沖、親、と、小、よ、と、是、と、害、せ、ん、と、せ、し、も、と、今、更、信、長、
 系、り、織、田、の、指、揮、を、受、ん、こ、思、ひ、絶、つ、事、の、ま、い、
 終、お、追、返、し、り、定、て、信、長、軍、兵、を、勇、一、進、軍、ら、ん、
 る、ん、が、あ、ら、と、敵、も、勢、も、お、し、を、彼、信、長、
 帥、ひ、攻、登、る、風、氣、を、定、て、雲、霧、の、像、く、
 將、軍、の、沖、為、小、之、好、松、永、と、伏、滅、し、母、君、
 登、軍、の、當、家、の、都、の、當、將、軍、義、榮、公、
 角、の、ま、と、も、港、小、り、多、と、新、公、方、家、
 出、家、道、世、の、所、分、あ、し、と、お、運、作、お、ひ、

おやけゆくも將軍の威を傾けんとすしやとて多しを維つたも其力なき信長
那色小生長く都の事を知りて由一願風の君を擁護せらる教他遠國も信
長一心地と通す。後あはれ是れも同断とす。遠連の防衛の自國の安全
望の系部の將軍の忠勤を奉ずるの軍の志を新骨碑身とて輕命重義
とてゆふし。防戦といふや。忠功の格別の新感賞は奉得をへ備
束執の徳の奉止せは是れも罪科あり。利言を奉して下知あり。是れも思
たてまると。是れも同断とす。兼復又子こもとて。忠功の防衛の志を
門を締固まら。和田山小要害を構へ。轉々勝て。敵守かく。彼地の街道は近れ
信長の軍を通らんと。胸無二と。小亦て。第一播磨のあら。尾張の武者
軍百臂を振とも。容易通つ得と。た右と。同小當城。其作二隊の軍勢を推
察。織田と。援て戦ふ。敵と。徹歴小。さ。事。箱裡の氣を擡ふ。奇。の。後。

おやと。おやと。し。く。遠。義。小。同。と。然。バ。仕。部。と。多。一。と。其。化。の。城。將。少。の
吉田出雲守を頼とて。今。く。彰。助。建。勲。源。八。長。派。軍。人。信。田。監。物。こ。ま。ら。の。勇
士。小。千。余。騎。の。精。を。と。て。對。敵。守。ら。せ。次。小。和。田。山。の。要。處。少。山。中。山。城。守
田中治勲大補。遠。西。將。小。千。余。人。撰。小。擇。と。これ。と。守。ら。せ。日。又。目。野。の。城。中。少
藩。生。小。野。中。貞。秀。入。道。使。幹。嫡。子。右。馬。助。又。賢。秀。八。百。余。騎。小。て。揃。え。ら。せ。ら。し。め
守。山。に。城。内。少。種。村。大。藏。大。輔。上。坂。主。馬。助。一。千。余。騎。小。て。守。居。せ。り。水。口。城。小。を
進。藤。山。城。守。建。部。兼。女。正。一。千。九。百。余。騎。小。て。石。部。の。城。小。に。伊。三。健。出。羽。中。見
内。藤。助。一。千。余。人。續。て。草。津。の。砦。少。馬。淵。治。部。大。補。同。藤。六。郎。七。百。余。騎。を
穿。城。と。せ。長。光。寺。の。砦。少。上。坂。多。庫。助。後。藤。孫。傳。八。郎。一。千。余。騎。小。て。固。め。さ。せ
と。其。外。水。原。松。湯。の。門。に。西。近。江。少。守。佐。山。賢。田。守。湯。の。城。を。區。防。禦
の。方。術。を。訪。け。都。て。枹。城。十。八。箇。を。双。の。湯。水。と。中。小。一。張。當。千。の。勇



豊臣記二編卷之六



豊臣記二編卷之六

士達が幾千の兵を率ゑて知らざりし大軍進軍を怖る事のあるべきを
 威禁して待たせしむ然れども小信長は依和山城中小島日がなど人馬休息あり
 至ひ諸小城攻めを措きて今日十日依和山城出張せし高宮の庄小陣
 と移して四倍せ放火して自軍の軍威を志せしむ然して敵の曉曉せ量
 る小の角も小も頼りし覚悟ありし事なれば其作和山兩城を如金別
 とこそ固めしむる容易も亦も出ざるあり然して諸傍の小城ありしを
 棄ても置ざりし方僅に首小攻めの城のつらまより先小せしむる
 川小陣を視り評議の場小諸士を集め信長面小宣ふや和山山を親
 善寺と鼎のこは小比とといひども親善寺の根本小と和山を作の捕城あり
 彼本城を臨しむる梢のたのむるさ小す親善寺(むらさ小)と合せ
 もいふに畢らぬ小柴田勝家進出君の計慮を察し(本)を流しと措き

の警小令を遠先陣の小信小令付らし賜ふる。使らち起んと欲むと見ん
 本下藤吉野実と進み然共んて言出さる。斯の句神の神神を丹もりの
 其作和山山の自軍の陣陣小近くと然も親善寺山を幫助んと欲む
 小築とし捕城あり北面の二箇をせらち棄て奥の本城を攻る响後あり其
 作和山より殿援せしむと斬て出るが自軍から攻め断きて軍旗あり
 危るらん親善寺山の本城の小信とびく急向して地理も見識て備分堅固
 の要産あり自軍のわど極くとも力攻め成さる。然小の勢公方家御
 首の軍ありし捕城小も此右も易に小就く一城を速く臨しらん自軍
 はこま小勇氣と懋はし敵の曉曉せ折ぐ。懋ゆる自軍は威氣せりて折け
 る敵小向ひるが小日小落さるらん捕城悉く臨くの信のちある聖固の
 要産小もせし本城を攻る捉城とせし終小臨ありしや。遠望せりて見る响る

此れ其作和山と攻むるを以て練ゆは勝家活と怒突るし謂ふ本中いふ
 豊臣の本城もせよ徳田の勇を修務骨と歩破る軍のうらやふ六精城
 より援軍をもよも又物量のこころあらん後令其作和山と攻むるを他城
 より援軍進合さぶこまを拒抗ふるやありぞ同じくまづ根城をせえ持さ
 落地中つこそ意地よりまされ又大吏の不在ありと驕望の罵りまふ本中こまを
 壓宥めその大勇の然ことあらば城の累代の修繕せよと要害最も者備ふ
 且こも余は捕城の一時の修理せよ城石垣も修繕せよこまをとりて攻むる易し
 又本城一敵の進ると見らるるが國中奉て援軍をよ。其作和山一敵進る
 こも逃く防禦の虎口を穿りたる事ありま他城に如勢の出せんとくらむ自國
 の援軍援てこまの事も知れぬまは後中論の益形より小隊のまを攻
 る今宵中小和山と系提羽を曉天少軍を精。其化を改法入をせし

のらんとす。後本城と攻るとも余の相城とてち攻る直地小都一推進とも時の應小
 ありしと。今宵中小和山と系提羽を曉天少軍を精。其化を改法入をせし
 今宵中小和山と系提羽を曉天少軍を精。其化を改法入をせし
 かんとせらるる。其意條條忽ちあら。ほこらと極止るるを秀吉詞を奉る
 ありとて其意條條忽ちあら。ほこらと極止るるを秀吉詞を奉る
 改法入をせし。今宵中小和山と系提羽を曉天少軍を精。其化を改法入をせし
 小もあま耳んと奉惟せん。やその時刻も近づれ。お起んとせし
 けり

繪本豊臣勳功記二編卷之八終

